

解答

問一 ウ
問二 目にもとまらぬ
1 イ 2 ア

問一 ウ
問二 目にもとまらぬ
1 イ 2 ア

問十五 声が、裏返った（とき）
問十六 ウ（人生では）困難に直面し、誰も助けてくれないことがあるかもしれないが、たよれるのは自分だけであり、一人で最後までやりきるしかない（といふこと。）
（風邪ならいいけど）変声期（だつたら大変よ。）
問十七 早く大人になりたい（といふ願いを神様はかなえてくれたけれど、それは）歌の練習ができなくなる（といふことを意味し。）先生と個人レッスンをしたい（といふ「ぼく」の気持ちと逆のものだったから。）
問十八 イ、ウ
問十九 哲平がミオ先生とのレッスンで様々な経験をして、男の子から大人に成長したこと。

問一 ウ
問二 オエ
問三 イア 2ア

① 看破 ② 映「る」 ③ 反「らして」 ④ 野放図 ⑤ こくそう ⑥ うわぜい
⑦ せつぱん

解説

問四 本文には、ぼくがミオ先生と出会い、音楽の才能を開花させて、皆の前で歌を披露した様子が描かれているので、選択肢Aは当てはまりません。

問十一 ⑧の前後に着目します。ぼくは声が裏返ったときどうしていいかわからなくなつたが、楽譜だけを見て伴奏を続けていた先生の姿から、自分が誰の助けも得られない状況にあることを知ります。練習のときは、すぐに終わってしまう歌を、なぜか長く感じながら、何も考えずに歌いつづけた様子から、もつともふさわしいものは選択肢イであることがわかります。
ぼくは、声が裏返つたことを指摘されたので、先生はやつぱり怒っているんだと絶望しています。しかし先生は、やめずに最後まで歌つたことをすばらしいと褒め、困ったときにたよれるのは自分だけであり、自分一人で最後までやるしかないということを教えたことから、「あのとき、飯島君を」から始まる先生の言葉をふまえてわかりやすく答えます。